

介護を天職としながら サーフィンにもものめり込む

鈴木邦明さん

介護福祉士 × サーファー

すずき・くにあき ● 1979年生まれ。高校卒業後、東京福祉専門学校で学ぶ。99年、社会福祉法人太陽会に入職。現在は、同法人の特別養護老人ホーム「めぐみの里」(千葉県鴨川市)で副主任を務め、実務者研修の講師も担当する。昨年8月に千葉県の「介護の未来案内人」に任命され、高校や大学を訪問し、介護の仕事の魅力をPR。介護福祉士

仕事も私生活も充実 介護の魅力のPR役に

私が介護に覚悟を決めて取り組もうと思ったのは、実際に介護福祉のことを学び始めてからです。高校時代は楽しめる仕事をしたいと思い、最初は美容師を志望していましたが、介護に興味を覚え、東京福祉専門学校に入学しました。実習に出て現場に触れるほど、ご利用者・ご入居者と接することがとても楽しく、これは自分に向いている仕事だと感じ、介護の世界に入る覚悟が決まったのです。サーフィンを始めたのは、太陽会に入職した後。サーフィンを趣



太陽会への入職後、先輩の誘いでサーフィンを始め、大きな生き甲斐となっている

味とする先輩たちが多く、誘われたことがきっかけです。始めてみれば、波に乗る感覚が面白く、周辺ではサーフィンの大会も多く、のめり込みました。介護・医療関係者の大会なども行われ、そこで培われた人のつながりもあり、似たような立場の人に仕事の相談をしたり、嫌なことがあったときに話を聞いてもらうことができました。今はサーフィンが生きがいの一つとなっているというだけでなく、そんな人のつながりに助けられています。

今は特養で副主任を務め、実務者研修の講師を担当しています。が、昨年8月に千葉県の「介護の未来案内人」の委嘱されました。この仕事は、高校・大学を訪れ、介護の魅力をPRすることです。

私は介護の仕事が楽しく、職場もきちんとしていると思っております。始業・終業の時間管理がしっかりしているから、業務が終わった後にサーフィンを楽しめる日もあります。残業もありますが、むしろ一般企業のほうが多いのではないのでしょうか。

また、介護は人の生活を支える仕事ですから、ご入居者のために、さまざまな催し・レクリエーションを行います。ここでは、どんな職員でも自分の取り柄を活かすことができます。たとえば、書道や絵画などが得意な職員は、施設内の飾りつけに力を入れたり、教室を開いて教えたりできます。

ご利用者・ご入居者に「ありがとう」と言われると本当に力が湧いてくるのも、この仕事ならではの醍醐味です。こうした介護の仕事の魅力を「介護の未来案内人」として、多くの生徒・学生たち、彼らを教える先生たちに発信していきたいですね。



特別養護老人ホーム「めぐみの里」で副主任を務める鈴木さん。千葉県の「介護の未来案内人」として、介護職の魅力のPRにも努めている